

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会記録

日時：2026年2月18日（水） 10:00～11:30

場所：加世田高校 会議室

出席者：外部評価委員4人・本校委員6人（校長，教頭，事務長，3部主任）

- 会順等：1 開会のことば
2 校長挨拶
3 本年度の教育活動について（各部主任）
4 学校評価アンケートについて（教頭）
5 質疑応答・意見交換
6 閉会のことば

〔委員からの質問・意見等の概要〕（○は評価委員から，●は本校委員から）

- ボランティア活動，例えばペットボトルキャップ回収などの生徒へ周知はどうしているか。
●校内でのポスター掲示による周知を行うとともに回収袋を複数箇所に設置するなどして生徒への啓発を行っている。
- 校則の見直し等について生徒の意見をどのような手順で反映させているか。
●校則検討委員会の前に，準備委員会で生徒を交えて協議をしている。
- CBTの活用など大学入試の現状を教えて欲しい。
●手続きはデジタル化。大学入試も今後CBT化の可能性はあるが現状はまだそこまで至っていない。高校でもタブレットを使用した授業が行われているが，手書きで行う学習方法も依然として重要な部分があることから機器の活用とのバランスを図りながら進めているところである。
- 令和8年度の入学者選抜に係る出願者が100人を超えたとのことであるが，その要因等についてアンケート等実施する予定はあるか。
●年度当初に県教委が行うアンケート以外に，本校独自の調査を実施し要因を探ることとしている。
- 大学入試等多様化しているが，情報提供はどのようにされているか。
●様々な機会ですべて生徒・保護者に説明をしているところである。
- いじめは犯罪行為でもあると考えられるが，生徒への啓発はどのようにされているか。
●関係機関連携しながら，様々な機会や方法を用い生徒への啓発は行ってきているところであり，生徒もある程度理解をしているものとする。今後も様々な選択をする際の判断力，思考力の醸成に努めていきたい。
- 小・中学校の機関にこれだけは身につけておいてほしいという部分はあるか。
●本校に入学してくる生徒は素直で伸び伸びと育てている印象を受ける。高校入学後様々な場面で書く力が必要。自分の思いや気持ちを伝えることにも繋がる重要な力である。
- 読書量の少なさが中学校の課題でもある。高校実態は如何か。
●趣味的な読書は全体として低下傾向にある。一方，調べ物などのための閲覧等については増加傾向にある。

○家庭学習の習慣がついていない生徒が多いが、高校は如何か。

●第1学年の取り組みとして、学習の習慣化を目的とした、宅習時間調査を実施するなどし、自宅学習の定着に努めている。

○生徒によるインスタの発信等考えているが、高校での状況は如何か。

●高校でも将来的には生徒によるインスタ配信などを想定しているが、現時点においては情報の管理の問題など精査が必要であることから、担当教諭による発信に留めている。